

取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管してください。



共同受信用ブースター

前置ブースター用給電スイッチ付
電源内蔵形 屋内用

—CS/BS-IF・UHF・V-Low・FM ブースター(高出力形)—



高シールド



V-Low・FM 76~108MHz、UHF 470~710MHz、CS/BS-IF 950~3224MHz増幅用

—CS/BS-IFブースター(高出力形)—



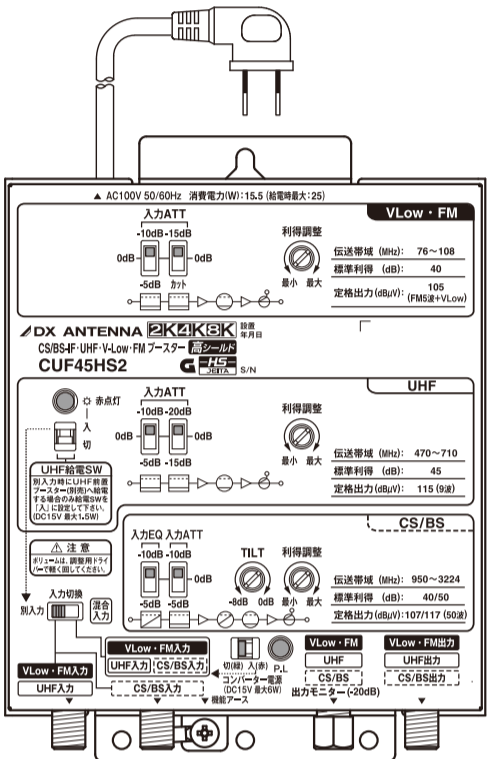
高シールド



CS/BS-IF 950~3224MHz増幅用

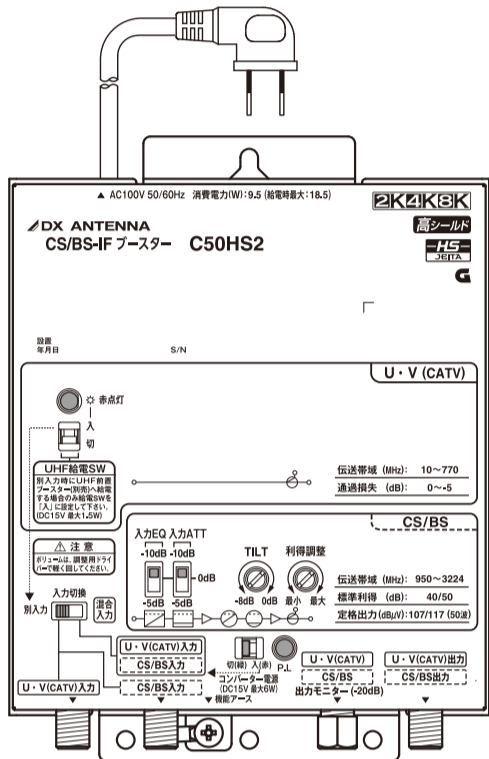
CUF45HS2 UHF45dB形

新4K8K衛星放送に対応
すべての2K・4K・8K放送(3224MHz)に対応しています。



C50HS2 CS/BS50dB形

新4K8K衛星放送に対応
すべての2K・4K・8K放送(3224MHz)に対応しています。



付属品

- 木ネジ(4.1×16mm) …… 3本
- F-5接栓(リング付) …… 3個

安全上のご注意

お使いになる方や他の人々への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。本文中に使われている図記号の意味は、次のとおりです。



警告

異常があるときは、すぐに使用をやめる
煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用しない
火災や感電の原因となります。すぐに電源コードをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して販売店・カスタマーセンターにご相談ください。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない
火災や感電の原因となります。

電源プラグは、コンセントの根元までしっかりと差し込む
ゴミやほこりが付着しているときは拭き取ってください。火災の原因となります。

電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因となります。

ぬれた手で電源プラグを触らない
感電の原因となります。

雷が鳴りだしたら、製品には触れない
感電の原因となります。

同軸ケーブルを傷つけたりしない
本製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがあります。接続や接栓の加工などで心線と編組を接触させたり、同軸ケーブルを傷つけたりしないようにしてください。火災や感電の原因となります。

電源コードや同軸ケーブルを接続した状態で移動しない
接続した状態で移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

ケースが破損した場合は、電源コードや同軸ケーブルを抜く
本製品から電源コードや同軸ケーブルを抜いて、販売店・カスタマーセンターにご相談ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

製品にテーパークロスやカーテンなどの燃えやすいものを掛けたり、じゅうたんや布団のうすに置かない
熱がこもり、火災の原因となります。

製品を分解・改造しない
感電やけがの原因となります。また、製品の性能が維持できなくなり、故障の原因となります。

注意

テレビ受信工事は技術経験が必要です
アンテナ関連の設置や配線、接続、調整、移設、撤去については、販売店・工事店にご相談ください。

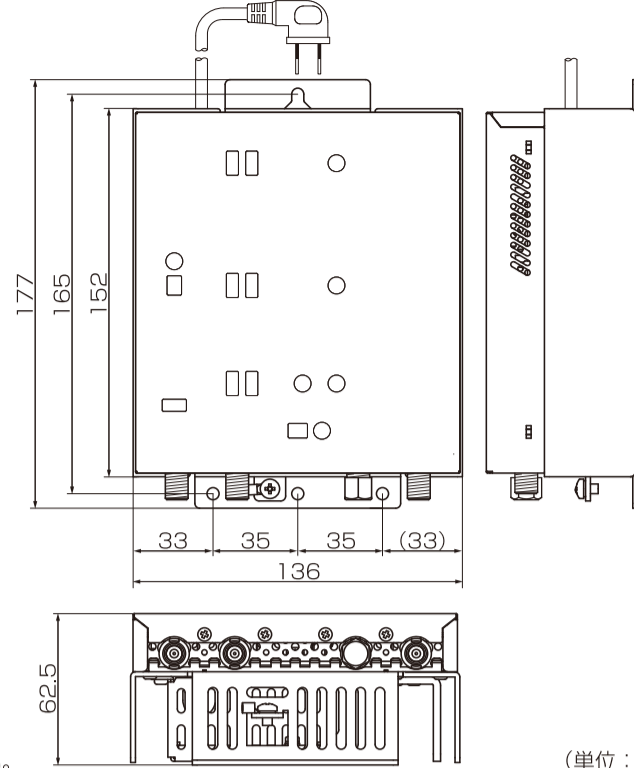
AMラジオから1.5m以上離して使用する
AMラジオの近くで使用するとラジオ音声にノイズが入る場合があります。

使用上のご注意

- スイッチを切り換える場合、切替操作を数回行い、スイッチ接点部の活性化(クリーニング)をしてください。長期間操作をしないと接点部に酸化膜が発生し、接触不良の原因になります。
- 出力モニターは、出力端子レベルから20dB低いレベルを出力しますが、出力端子にケーブルが接続されていないと正確なレベルを出力しません。より正確なレベル測定を行う場合、出力端子を使用してください。
- 本製品を落としたり、ぶつけたりしないよう注意してください。
- 天井や熱のこもる場所への取り付けはしないでください。必ず入出力端子が下向きになるように本製品を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。
- 放熱性に富むアルミ合金製シャーシを採用していますので、筐体が熱を持ちますが異常ではありません。
- 正常な動作を確認するために、定期的な点検を実施してください。

外形寸法図

寸法は(CUF45HS2)(C50HS2)共通です。(下記外観形状はCUF45HS2です)



(単位: mm)



ホームページでも初期設定や、各種端末の詳細な手順を確認できます。QRコードからアクセスしてください。

※本製品を処分するときは、産業廃棄物として処理してください。

保証書

(2008-08-01)

■保証期間
製品の保証書または購入日が確認できる購入証明書(レシート、納品書など)に記載されている購入日より1年間、本製品を本規定に従い無償修理をすることを保証いたします。*消耗品は除く

保証期間	1年間
------	-----

■無償修理
保証期間中、取扱説明書、本体付ラベルなどの注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、お買い求めの販売店にお持ちいただくか、弊社修理センターに送付してください。弊社修理センターへご送付いただく場合の送料はお客様のご負担となります。また、ご送付いただく際、適切な梱包の上、紛失防止のため受渡の確認できる手段(宅配や簡易書留など)をご利用ください。尚、弊社は運送中の製品の破損、紛失については一切の責任を負いかねます。

■適用の除外
次のような場合には保証期間中でも有償修理となります。
①ご使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障および損傷。
②お買い上げ後の取り付け場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷。
③火災、地震、噴火、洪水、津波などの水害、落雷、その他の天変地異、戦争、暴動による破壊行為、公害、塩害、ガス害または、ねずみや昆虫、鳥などの動物の行為による損傷。指定以外の使用電源(電圧、周波数)や異常電圧による故障および損傷。
④塗装の色あせなどの経年劣化や、使用に伴う摩擦などにより生じる外観上の現象。
⑤使用外(例えば車庫、船舶への搭載など)に使用された場合の故障及び損傷。
⑥製品の保証書または購入日が確認できる購入証明書(レシート、納品書など)を提示、添付されていない場合。
⑦保証書にお買い上げ年月日、お買い求めの販売店の記入がない場合、または字句を書き換えられた場合。

お買上年月日	ご住所・ご店名
年 月 日	電話()

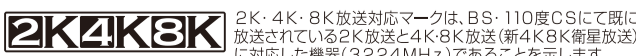
カスタマーセンター 0570-033-083
※全国一律料金でご利用いただけます。
※携帯電話・PHSからもご利用いただけます。
※ナビダイヤルは各社音声通話定額サービスの対象外となっております。
Dアンテナ株式会社 受付時間 9:30~17:00 (夏季・年末年始休暇は除く) ホームページアドレス https://www.dxantenna.co.jp/ 6147 一部の1P電話で上記番号がご利用にならない場合: 050-3818-9016

規格特性

品名 / 型番	CS/BS-IF・UHF・V-Low・FMブースター/CUF45HS2		
	V-Low・FM	UHF	CS/BS-IF
使用帯域	76~108	470~710	950~3224
周波数帯域 (MHz)	76~108	470~710	950~3224
入力レベル範囲 (dBμV)	44~90 (注1)	44~100 (注2)	44~77 (注3)
標準利得 (dB)	40	45	40/45/50/950/2150/3224MHz
定格出力レベル (dBμV)	105(FM5波+V-Low)	115(9波)	107/112/117/950/2150/3224MHz
入力A T T (dB)	0、-5/-10、-15/カット(注4)	0、-5/-10、-15/-20 (注4)	0、-5/-10 (スイッチ切換式)
入力E Q (dB)	—	—	0、-5/-10 (スイッチ切換式) (950MHz) (注5)
利得調整範囲 (dB)	—	0~-10以上 (連続可変)	—
T I L T (dB)	—	—	0~-8以上 (連続可変) (注5)
帯域内周波数特性 (注6) (dB)	±1.5以内	±2.0以内	任意の34.5MHzで±1.0以内、チルト直線に対し全帯域で±2.5以内
雑音指数 (注6) (dB)	5以下	4以下	10以下
入出力インピーダンス (Ω)	—	75(F形)	—
V S W R (注6)	—	2.5以下	—
相互変調 (I M 3) (注6) (dB)	-72以下	-71以下	—
C I N (注6) (dB)	—	—	-22以下
利得安定度 (dB)	±1.0以内	±1.5以内	±2.0以内
出力モニター (dB)	—	-20	—
耐衝撃波	入出力端子・電源端子 JEC: ±25kV(1.2/50μs)、IEC: ±15kV、±1.5kA(1.2/50-8/20μs コンビネーション)	—	—
直流供給電源	—	DC15V / 1.5W	DC15V / 6W
電源 / 消費電力	AC100V(50/60Hz) / 15.5W、UHF給電時17.5W、CS/BS給電時23W、UHF+CS/BS給電時25W	—	—
使用温度範囲 (°C)	—	-10~+40	—
漏洩電界強度 (dBμV/m)	—	34以下	40.2以下
外形寸法 (mm)	—	177(H) × 136(W) × 62.5(D)	—
質量 (kg)	—	1.0	—

品名 / 型番	CS/BS-IFブースター/C50HS2	
	UHF・V-Low・FM (CATV)	CS/BS-IF
使用帯域	10~770	950~3224
周波数帯域 (MHz)	10~770	950~3224
入力レベル範囲 (dBμV)	—	44~77(注3)
標準利得 (dB)	0~-5	40/45/50/950/2150/3224MHz
定格出力レベル (dBμV)	—	107/112/117/950/2150/3224MHz
入力A T T (dB)	—	0、-5/-10 (スイッチ切換式)
入力E Q (dB)	—	0、-5/-10 (スイッチ切換式) (950MHz) (注5)
利得調整範囲 (dB)	—	0~-10以上 (連続可変)
T I L T (dB)	—	0~-8以上 (連続可変) (注5)
帯域内周波数特性 (注6) (dB)	—	任意の34.5MHzで±1.0以内、チルト直線に対し全帯域で±2.5以内
雑音指数 (注6) (dB)	—	10以下
入出力インピーダンス (Ω)	—	75(F形)
V S W R (注6)	—	2.5以下
C I N (注6) (dB)	—	-22以下
利得安定度 (注6) (dB)	—	±2.0以内
出力モニター (dB)	—	-20
耐衝撃波	入出力端子・電源端子 JEC: ±25kV(1.2/50μs)、IEC: ±15kV、±1.5kA(1.2/50-8/20μs コンビネーション)	—
直流供給電源	DC15V / 1.5W	DC15V / 6W
電源 / 消費電力	AC100V(50/60Hz) / 9.5W、UHF給電時11W、CS/BS給電時16.5W、UHF+CS/BS給電時18.5W	—
使用温度範囲 (°C)	—	-10~+40
漏洩電界強度 (dBμV/m)	—	40.2以下
外形寸法 (mm)	—	177(H) × 136(W) × 62.5(D)
質量 (kg)	—	0.9

(注1)入力ATTスイッチを[-25dB]にした時の最大入力レベル (注2)入力ATTスイッチを[-30dB]にした時の最大入力レベル (注3)入力ATTスイッチを[-10dB]にした時の最大入力レベル (注4)加算式仕様は改良により、予告なく変更させていただきます。

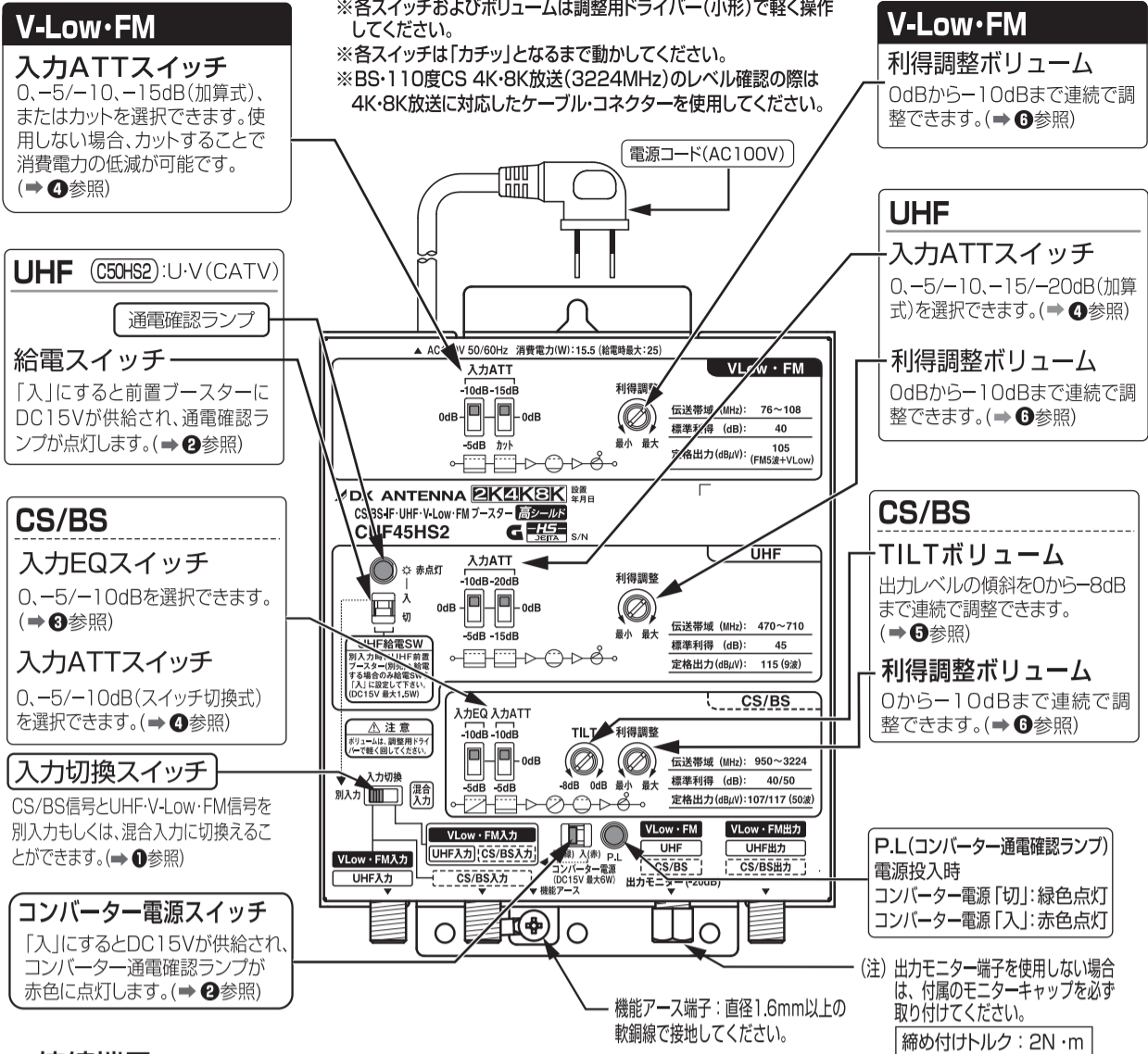


高シールド 高シールドマークは、携帯電話や各種無線サービスなどの電波干渉を抑制するため、厳しい社内基準を基準にシールド性を高めた製品であることを示します。

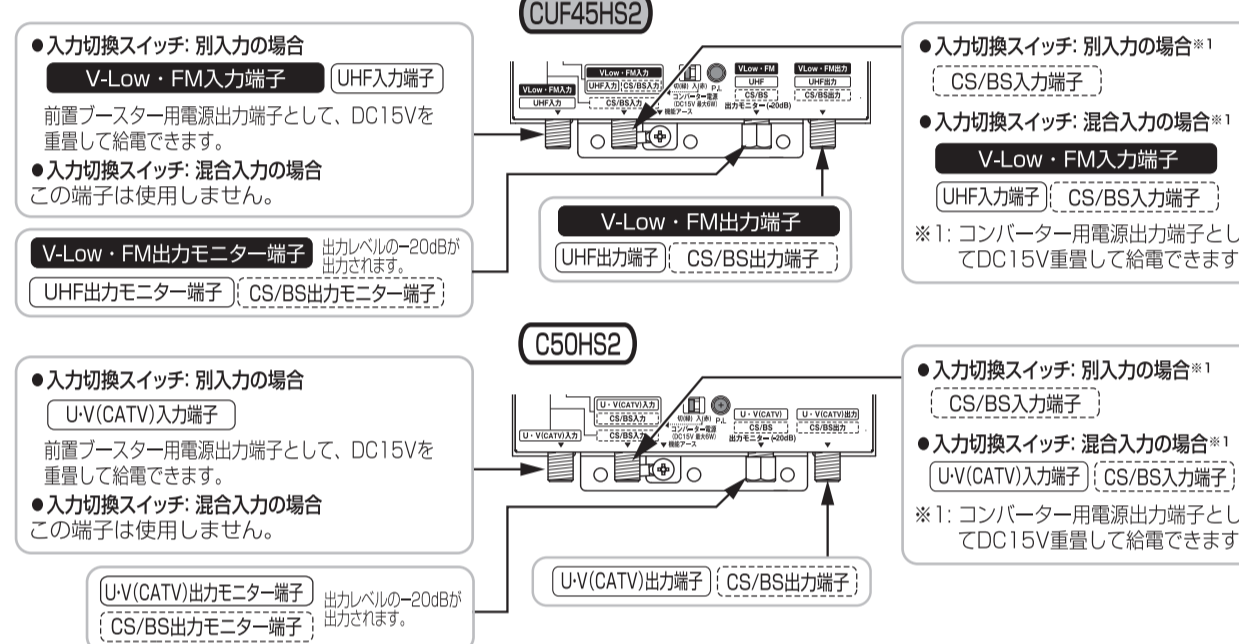


HSマーク(ハイシールドマーク)は、一般社団法人 電子情報技術産業協会が審査・登録され、衛星テレビジョン放送の中間周波数帯域において、一定以上の高い性能を有する機器に付与されるシールドマークです。

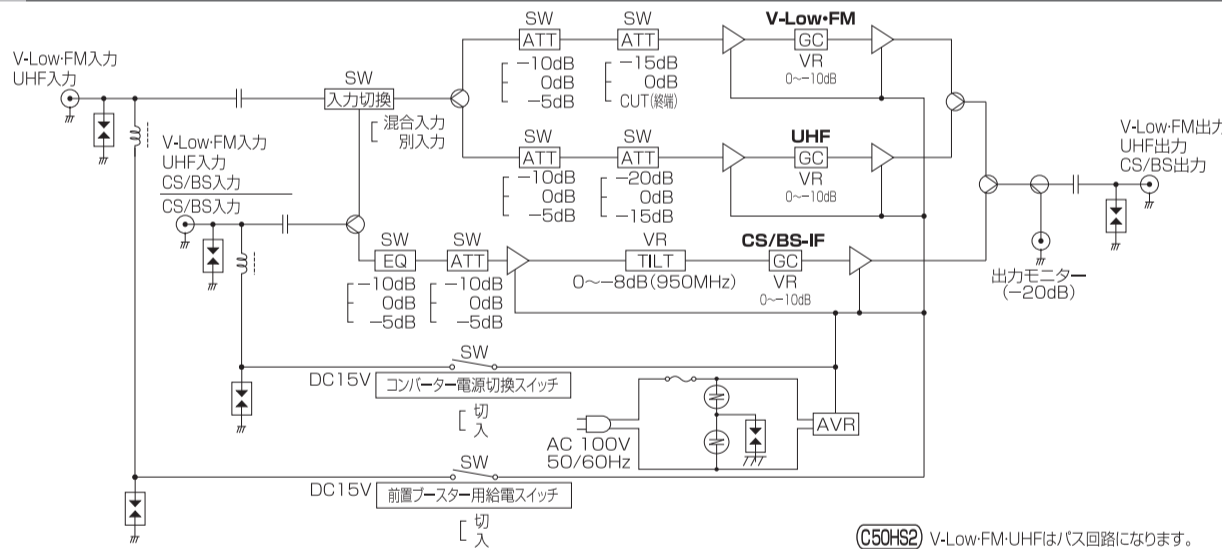
各部の名称 ※下図スイッチ位置は出荷時の設定です。出荷時のボリューム位置は最小側です。(イラスト: CUF45HS2)



接続端子



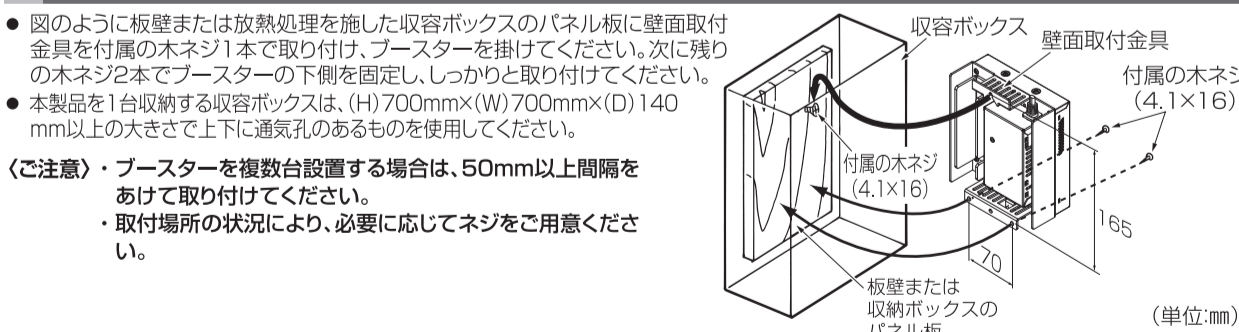
ブロックダイアグラム 下記ブロック図はCUF45HS2です。



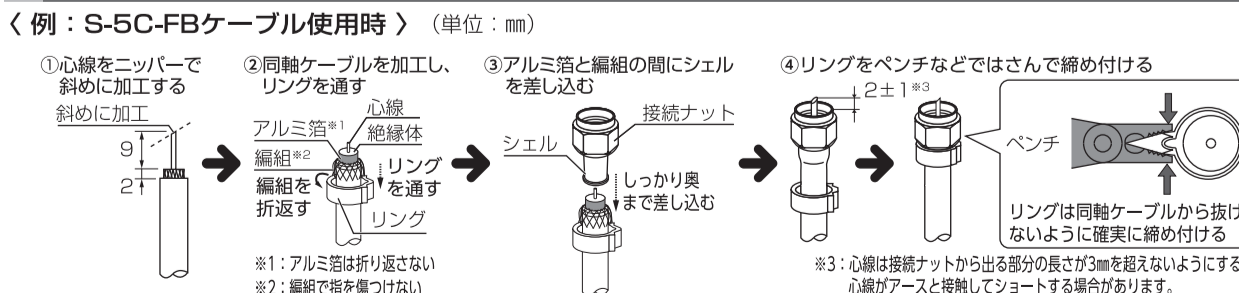
お取扱いの前に

- 設置作業は、この取扱説明書をよくお読みのうえ行なってください。
- 本製品は屋内専用です。屋外に設置する場合は、必ず防水・防雨ならびに放熱処理を施した収容ボックスなどに収容してください。
 - 取り付けに用いる以外のネジを回したり、製品本体のカバーを開けて回路部品に手を触れたりしないでください。前記に伴う故障については、製品保証の対象外になります。
 - 電源を供給する前に機能アースを必ず接地してください。なお、機能アースは安全アースではありません。
 - 本製品に接続する同軸ケーブルが7Cタイプの場合には、必ずコンタクトピン付接合器を使用してください。心線の直径が1.1mmを超えるケーブルを直接接続すると、変形や接触不良の原因となります。
 - 接続に使用する同軸ケーブルへの接合の取り付けは、その同軸ケーブル専用の接合を説明書に従って加工してください。特殊な加工をしたものを使用すると特性の悪化や機器の破損につながります。
 - 入出力端子へのF形接合の接続は、接続ナットを2N・mで締め付けてください(締め付けの過不足は故障や障害の原因となります)。
 - 4K・8K放送(新4K8K衛星放送)を見るためには、3224MHzまで対応した同軸ケーブルや4K・8K対応のBS-110度CSアンテナなどの機器が必要です。

取付方法

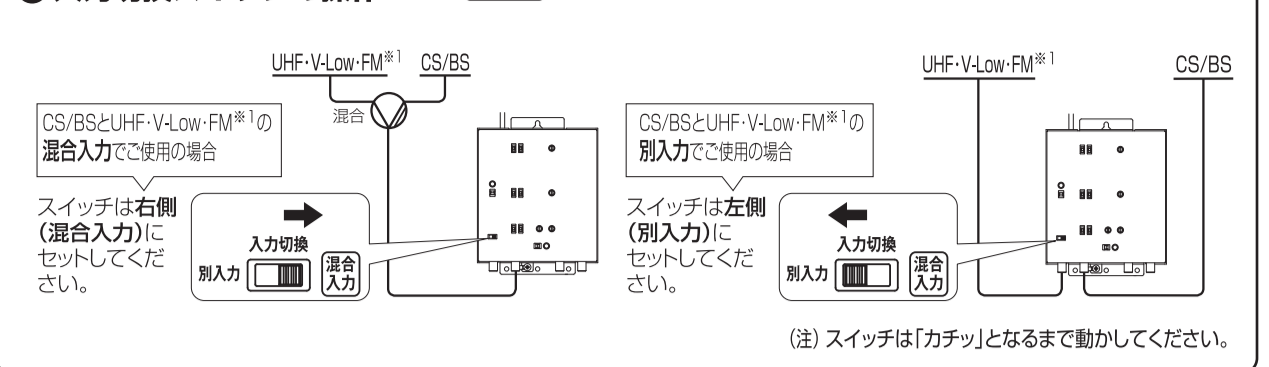


接合への同軸ケーブルのつなぎ方 ※C50HS2にはF-5接合(リング付)は付属しておりません。別売のC-15形接合器をご使用ください。



1 入力切替スイッチの操作

※1 (C50HS2) : U-V (CATV)



2 給電スイッチまたはコンバーター電源の操作

- UHF前置ブースターへの給電(給電スイッチ)**
- 別入力時にUHF前置ブースターなどに電源(DC15V最大1.5W)を供給する場合のみ、UHF給電スイッチを「入」にしてください。
 - UHF前置ブースターを動作させるための重畳電源を供給できる端子は、UHF-V-Low-FM入力端子(C50HS2は、U-V (CATV)入力端子)のみです。
- CS/BSアンテナへの給電(コンバーター電源)**
- CS/BSコンバーター用電源(DC15V最大6W)を供給する場合は、コンバーター電源スイッチを「入」にしてください。コンバーター通電確認ランプ(P.L.)が赤色に点灯します。「切」にすると緑色に点灯します。
 - 入力端子側でショートしている場合、ランプが消えます。コンバーター電源スイッチを「切」にして入力端子側のショート箇所を取り除いてください。この製品が動作しなくなり故障の原因となります。
 - CS/BSコンバーターを動作させるための重畳電源を供給できる端子はCS/BS入力端子のみです。
- 重畳ラインの機器は通電形を使用し、通電端子に接続してください。
 - 重畳電源で動作させる場合以外に通電すると故障の原因となりますのでご注意ください。
 - 電源の供給はケーブルの接続を確認した後に行ってください。

3 入力EQスイッチの操作

- CS/BSの調整**
- 3224MHz付近を基準として950MHzの利得を5/10dB減衰させることができます。 ※スイッチの間は0dBです。
- 4 入力ATTスイッチの操作**
- 入力ATTスイッチを操作することにより、入力レベルをフラットに下げることができます。
 - それでもなお、入力オーバーの時は、別売のアッテネーター(減衰器)を入力端子に挿入してください。
- CUF45HS2**
 ※V-Low-FMのカットスイッチの操作
 V-Low-FMを使用しない場合は、スイッチをカットしてください。消費電力を低減することができます。

5 TILTボリューム

- CS/BSの調整**
- CS/BSのTILTボリュームを反時計方向に回すにつれて、3224MHz付近を基準にして950MHzの利得が8dB減衰します。
- 6 利得調整ボリュームの操作**
- CS/BS, UHF, V-Low-FMの調整 (CUF45HS2)**
CS/BSの調整 (C50HS2)
 後段に接続される機器が過入力にならないよう、利得調整ボリュームを調整してください。利得調整ボリュームは「反時計回り」に回しきった時、利得が最小になります。
 〈ご注意〉 ボリュームは調整用小形ドライバーで軽く操作してください。強く回すとボリュームが破損する場合があります。

調整方法

- 〈調整の流れ〉**
- 手順1: 入力信号レベルの確認
 - 手順2: 入力信号レベルの調整
 - 手順3: 信号の入力方法選択
 - 手順4: ケーブルの接続
 - 手順5: 測定器の接続
 - 手順6: 各帯域の調整
 - 手順7: 最終チェック
- 弊社がおすすめする基本的な調整手順は下記のとおりです。
- 手順1: 入力信号レベルの確認 (重要)**
 はじめに、測定器(レベルチェッカーなど)で各帯域の入力信号レベルを測定し、入力レベル範囲内であることを確認してください。
 V-Low-FM: 44 ~ 90dB μ V (CUF45HS2)
 UHF: 44 ~ 100dB μ V (CUF45HS2)
 CS/BS[※]: 24波時 47~77dB μ V(950MHz/2150MHz) (※1) (CUF45HS2) (C50HS2)
 : 50波時 47~77dB μ V(950MHz/3224MHz) (※2) (CUF45HS2) (C50HS2)
 このとき、上記レベル範囲を超える場合は入力側にアッテネーター(別売)を接続し、下回る場合はアンテナの取扱説明書を見て確認/調整してください。
 ※レベルチェッカーなどのCS/BSコンバーター供給用電源によりBS-110度CSアンテナにDC15Vを供給してください。
- 手順2: 入力信号レベルの調整 (重要)**
 確認した入力レベルが下記のレベルに近づくように各帯域の入力ATTスイッチおよび、入力EQスイッチ(CS/BSのみ)を設定してください。
 V-Low-FM: 65dB μ V (CUF45HS2)
 UHF: 70dB μ V (CUF45HS2)
 CS/BS: 24波時 67/67dB μ V (950MHz/2150MHz) (CUF45HS2) (C50HS2)
 : 50波時 67/67dB μ V (950MHz/3224MHz) (CUF45HS2) (C50HS2)
- 手順3: 信号の入力方法選択 (混合入力/別入力の選択)**
 入力切替スイッチをお客様の使用環境に合わせて選択してください。(ケーブルを接続する前に選択してください)
- 手順4: ケーブルの接続**
 入力端子にアンテナ側の同軸ケーブルを接続してください。次に出力端子に端末側の同軸ケーブルを接続(または75 Ω で終端)してください。
- 手順5: 測定器の接続**
 出力モニター端子から付属のモニターキャップを取り外し、測定器(レベルチェッカーなど)を接続してください。なお、出力端子に同軸ケーブルが接続(または75 Ω で終端)されていないと出力モニター端子は正確なレベルを出力しません。(測定後は付属のモニターキャップを必ず取り付けてください。)
 ※より正確なレベル測定を行なう場合、出力端子に測定器を接続してください。
 ※測定を行う時、非常に高い出力レベルとなる場合があります。測定器故障の原因となりますので入力レベルに注意してください。
- 手順6: 各帯域の調整** (手順1~5完了後に行なってください)
 出力モニター端子は出力端子の出力レベルから20dB低い値を示しますので、真の出力レベルは20dBを加えてください。
<V-Low-FMの調整> (CUF45HS2)
 出力レベルを測定します。出力モニターでの信号レベルが85dB μ V (定格出力レベル^{※1}-20dB) 以下になるように、利得調整ボリュームで調整してください。(※1 定格出力レベル 105dB μ V)
<UHFの調整> (CUF45HS2)
 出力レベルを測定します。出力モニターでの信号レベルが95dB μ V (定格出力レベル^{※2}-20dB) 以下になるように、利得調整ボリュームで調整してください。(※2 定格出力レベル 115dB μ V)
<CS/BSの調整> (CUF45HS2) (C50HS2)
 出力レベルを測定します。出力モニターでの信号レベルが24波時87/92dB μ V、50波時87/97dB μ V (定格出力レベル^{※3}-20dB) 以下になるように、利得調整ボリュームで調整してください。(※3 定格出力レベル 107/112dB μ V: 24波時、107/117dB μ V: 50波時)
- 手順7: 最終チェック**
 調整後の出力レベルが後段に接続する機器に対して過入力の場合は、各帯域の利得調整ボリュームを反時計回りに回して調整してください。また、最終的に映像が正常に映ることを確認してください。

〈参考〉カスケード(多段)接続時の運用 カスケード(多段)接続する場合は、各ブースターの出力レベルを以下のように設定してください。

